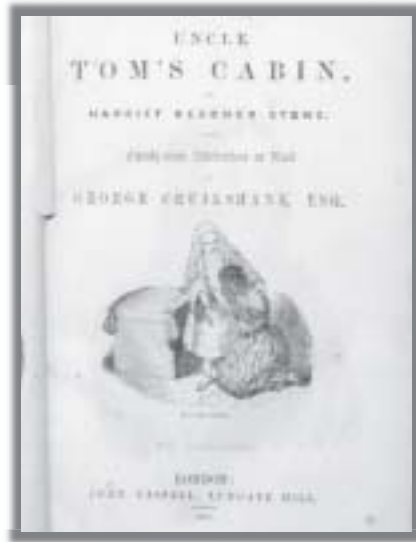


本学図書館の貴重書



STOWE, Harriet E. B. Uncle Tom's Cabin. London, 1852

『アンクル・トムの小屋』

ハリエット・ビーチャー・ストー(1811-1896)はアメリカの女流作家。コネティカット州のリッチフィールドで生まれた。1832年にオハイオ州のシンシナティで教師となり、地方紙への寄稿もしていた。1836年に学校が閉鎖されると、大学教授と結婚したが、夫は病弱で貧窮を極めた。オハイオやケンタッキーに奴隷を使っている地域があり、彼女は悲惨な奴隷達の生活状態を見聞した。

本書では、奴隷の悲惨な生活がケンタッキーを舞台にして描かれている。信心深い中年の男奴隷トムはシェルビー家から売られて行く途中、シンクレアの娘エバが溺死しかけたのを救う。シンクレアはトムを召使いとし、その好意に報いる。しかし、シンクレアが死ぬとトムは再び売られ、新しい主人レグリーの残虐のためトムは死に追いやられる。シェルビー家の息子ジョージがトムを買い戻そうと駆けつけた時は手遅れだった。

本書は、1851年に反奴隷制度運動の機関紙《National Era》に連載された後、1852年に単行本として刊行されたもので、1年間で30万部売れたといわれている。また、同年ジョージ・エイケン(George L Aiken, 1830-1876)によって脚色劇化され、舞台でも大当たりした。この物語が南北戦争の勃発に多大の影響を与えたといわれている。

この作品全体を貫く作者のキリスト教的人道主義が、当時のアメリカの人々の心を強くゆり動かした。今日なお読者の心を打ち、読み継がれている。

原寸 21.1×13.3cm

『洋書百選』(1972年本学図書館刊行)より抜粋し、加筆